

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2013年8月号)

～現物は弱含み、基準値との乖離は縮小と予想する

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

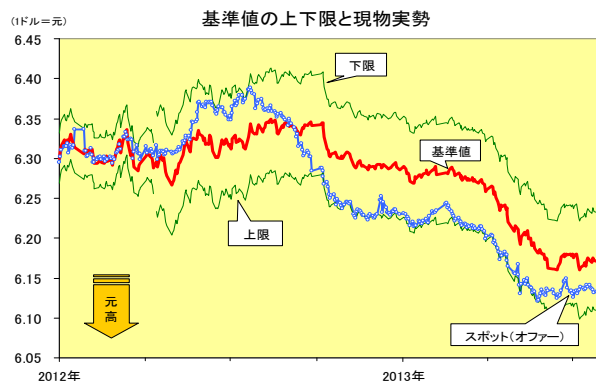
- 7月の対米国ドル人民元相場は、基準値がほぼ横ばい、現物実勢は基準値から0.4～0.8%程度元高・ドル安な水準で推移、相場の先行きを予測して動くNDFは基準値より2%前後元安・ドル高な水準で推移した。また、新興国通貨では韓国ウォンが堅調だったもののインドネシアルピアやブラジルレアルなどは下落、米国ドルに対して下落した通貨の方が多かった。
- 8月の展開としては、基準値は物価の落ち着きや景気の減速を背景に、1米国ドル=6.18元前後で推移すると予想。一方、現物実勢は市場が金融市場混乱を警戒する中で、外国為替資金残高の増加が止まってきており、米中長期金利差も縮小に向かっていることから、基準値に鞘寄せする形で弱含みと予想している。

[前月の動き]

7月の対米国ドル人民元相場は基準値・現物実勢ともにほぼ横ばいで推移した。基準値は8日に前月安値となる1米国ドル=6.1807元を付けた後、11日には前月高値となる同6.1599元を付け2005年7月の人民元切り上げ後の最高値(同6.1598元)に迫る場面もあったが、その後は弱含み7月末は前月末とほぼ同じ6.1788元で終えた。また、現物実勢は基準値から0.4～0.8%程度元高・ドル安な水準で推移し、7月末は前月末比0.1%元高・ドル安となる1米国ドル=6.1290元(スポット・オファー、中国外国為替貿易センター)で終えた(図表-1)。

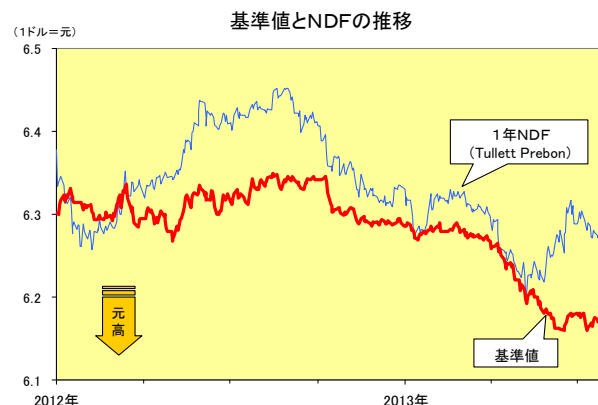
また、相場の先行きを予測して動くNDF(ノンデリバラブル・フォワード、1年先渡し、Tullett Prebon)は、基準値より2%前後元安・ドル高な水準で推移していた(図表-2)。

(図表-1)



(資料)CEIC(中国外国為替貿易センター)のデータを元にニッセイ基礎研究所で作成
(注)上下限は2012年4月16日から基準値±1.0%、それまでは同±0.5%

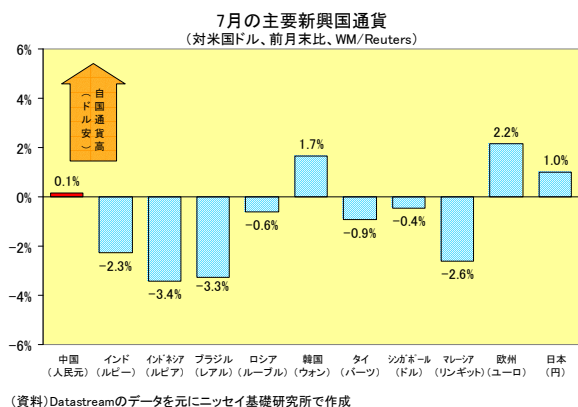
(図表-2)



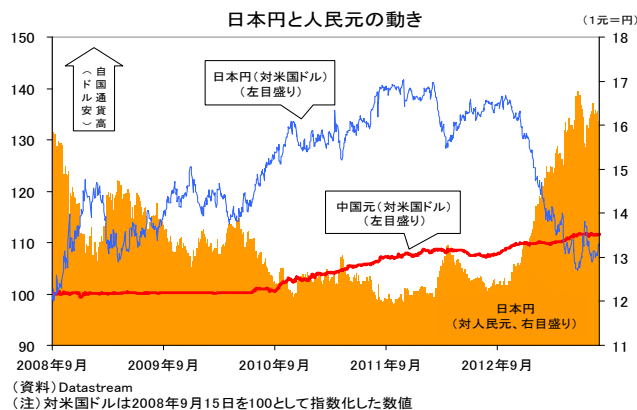
(資料)Datastream

一方、世界通貨の動きを見ると、欧州ユーロが前月末比 2.2%上昇、日本円が同 1.0%上昇と主要通貨は対米国ドルでやや上昇した。他方、新興国では韓国ウォンが同 1.7%上昇と堅調だったものの、インドネシアルピアが同 3.4%下落、ブラジルレアルが同 3.3%下落するなど対米国ドルで下落する通貨が多かった（図表-3）。なお、元・円ともに一進一退の動きだったことから、対日本円ではここ数ヵ月 1 元=16 円前後で推移、リーマンショック前とほぼ同水準にある（図表-4）。

(図表-3)



(図表-4)

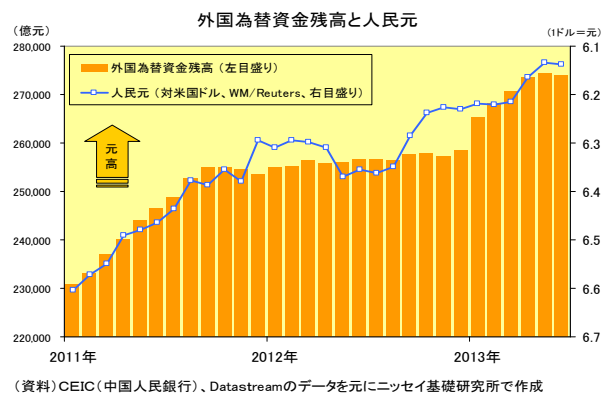


[今後の展開]

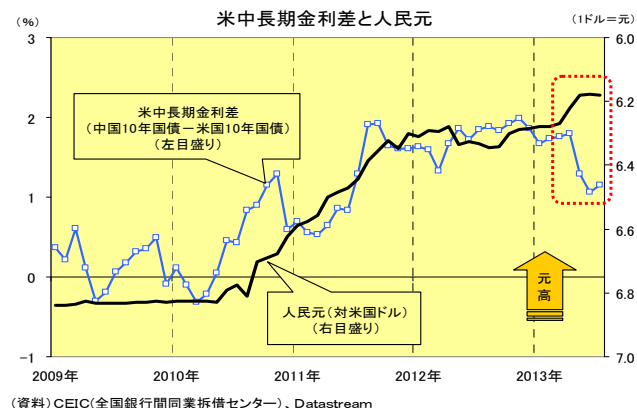
今後の見通しとしては、①中国の物価は落ち着いており、人民元高にして輸入物価を抑制する必要性は小さいこと、②中国の景気は減速気味で、輸出に不利となる人民元高は避けたい局面であること、③多くの新興国通貨が軟調に推移しているため、人民元は横ばいでも相対的には割高となりやすいことなどから、中国政府は基準値を 1 米国ドル=6.18 元前後で推移させるだろう。

一方、許容変動幅（基準値±1%）の範囲で市場メカニズムにより動く現物実勢は、①市場が中国の金融市場混乱への警戒を強めていること、②これを受けて外国為替資金残高の増加が止まってきたこと（図表-5）、③米国が出口戦略を模索し始めたため米中長期金利差が縮小に向かっていることなどから（図表-6）、8月の現物実勢は弱含み、基準値に鞘寄せするだろうと予想している。

(図表-5)



(図表-6)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。